

# 長期入院患者看護の家族のための宿泊施設

## 10月着工、来春に完成

### 北電の創立 50周年事業 北大と札幌医大に建設



札幌医大に建設されるファミリーハウスの完成予想図

北電(本社・札幌市、南山英雄社長)は創立五十周年記念事業として、北大と札幌医大に、小児慢性疾患などによる長期入院者の家族が看護のために長期滞在を余儀なくされた場合の臨時宿泊施設「ファミリーハウス」をそれぞれ建設し、寄贈する。設置場所は未定。今年十月には着工し、来年三月の完成を予定し、一泊二千元程度での宿泊が可能になるといふ。(青木拓道記者)

長期入院者の経済的、精神的負担を軽減しようと寄贈を決めた。滞在に必要な設備を備えた施設

で、低料金で快適に過ごせるのが特徴。同社は「家族同士が助け合い、励まし合う場になれば」と話している。

施設はいずれも軽量鉄骨二階建て、延べ五百四十平方メートルで、オール電化仕様。建設費は備品類も含め約一億三千万円。北大の場合は、十畳洋室に風呂、トイレ、台所、テレビ、エアコン、冷蔵庫を備えた1Kの宿

泊室八室のほか、四十畳の控え室、談話室、事務室などを設ける。札幌医大もほぼ同様だが、宿泊室は十室とし、控え室を省いた。

完成後はそれぞれの大学が運営管理する。また、同社の労働組合「ほくでんユニオン」は社会貢献の一環として、各大学に運営費としてそれぞれ二百万円を寄付する。

長期入院者は、北大の場合、年間約百五十人程度で、平均入院日数は約四十日。札幌医大の長期入院者は年間約二百人、平均入院日数は三十一、四十日という。

◇ 同社はこのほか、記念

南山社長は今日一日、

創立五十周年を迎え「電力小売の部分自由化スタートなどで、今後、本道の電力市場をめぐる競争は厳しくなるが、常にチャレンジ精神を忘れず、経営効率化を進め、満足いただけるサービスをこころがける」などとするコメントを発表している。